

復興を支える人たち

84

住民喜ぶもの造りたい

久本組東北支店
駒形作業所

みずもと たかや
水本 貴也さん(43)

気仙沼市が大島で進めている駒形漁港の復旧事業で、現場代理人を務める。主に海拔7メートルの防潮堤を築く工事は、昨年末から本格的に始まった。

車両の通行など、周辺の方々の迷惑にならないように進めた」と話す。

砕石やコンクリート製品などの資材は、本土からカーフェリーで輸送した町。大島島内の旧旅

館で作業員と共に共同生活を送る。現在10人ほどいる作業員は、今後2倍に増える予定。安全管理に細心の注意を払うとともに「一日でも早く復興できるように仕事を進めたい。そして住民の方々に喜ばれるものを造れば」と意気込む。

駒形の現場と長崎の事務所を往復する毎日。工程管理、現場の測量、作業員や設備の安全管理など気の抜けない日々が続く。

東日本大震災後は松島、女川に続いて3カ所目の現場。「騒音や土ぼこり、

